

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1173600261
法人名	有限会社フクシ
事業所名	グループホーム藤の里
所在地	〒347-0111 埼玉県北埼玉郡騎西町鴻荳2168-2 (電話) 0480-73-2943

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月17日

【情報提供票より】(20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月7日		
ユニット数	2 ユニット	18 人	
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	22,500円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 0 円
または1日当たり1,300円			

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	騎西クリニック病院、ふれあいクリニック、神澤歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な田園地域に位置し、平屋建て2ユニットのグループホームである。ショートステイ「藤の里」が隣接し、恵まれた自然環境の下、認知症の進行を緩和し安心して日常生活が送れることを目指している。利用者は、地域の中で普通に生活しながら、生活の自立を図り、利用者中心の介護サービスが提供されている。騎西町や社会福祉協議会と協力し、ボランティアの充実、介護予防教室への参加、実習生の受け入れ等が積極的に行われており、地域貢献にも取り組んでいる。管理者は、職員の健康で明るく笑顔を絶やさない介護によって、利用者との信頼関係構築を大切にしている。職員の離職も少なく、利用者は馴染みの職員の支援で穏やかなゆったりとした日々を過ごしている。地域に開かれたホームを目指し、多彩なボランティア活動があったり、近隣の方々がホームに気軽に立ち寄っている。常に利用者本位で、介護サービスの質の向上を目指した取り組みをしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>大きな改善点はなかった。職員にゆとりがある時には一緒に食事をしているが、食事の介助を必要とする利用者がある場合には難しい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を確認し、個々の職員が自己評価に取り組み、ケアの振り返りをした。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年に2回の運営推進会議では、運営や現状、利用者の医療、介護への取り組み等、活発な意見交換をしている。顧問である協力医参加のもと、利用者の高齢化、重度化した場合の往診について話し合いをし、具体的な実践に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情箱を設置したり、面会時には近況を話し合いながら、意見や不安を出しやすいように配慮している。家族からの意見や希望については、毎月実施している家族会で話し合い、改善への方向付けをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として自治会に加入し、お祭りや敬老会等の行事に参加し、また物づくりスタンプラリーでは、地域の小中学生との交流を図っている。日常的な散歩や、クリーンデー(ゴミ拾い)など、地域活動に普通に参加し、近隣の人々とお茶のみ交流をしている。近隣者から取り立て野菜のおすそ分けも多く、野菜の作り方を教えてもらうこともある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として、地域において、可能な限り自立した日常生活が出来るよう、暖かいサービスの提供を目指すことを掲げている。馴染みの人たちに囲まれて暮らし続けられる地域密着型サービスに努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、ホール等に掲示し、管理者と職員は、理念が日常のケアに活かされるよう、ケアプランやレクリエーションや行事等で実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、自治会に加入し、お祭りや敬老会等の行事に参加している。また、ものづくりスタンプラリーに参加し、小中学生と一緒にものづくりを通して、幅広い年齢層の人たちとの交流の機会をもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や目的をミーティング等で職員と確認し、自己評価に取り組み、また、外部評価の結果を検討し日々の実践に活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2回開催され、会議では、利用者の状況や行事やボランティア活動の実際、医療対応等について報告し意見交換をしている。会議で取り上げられた課題については、実際に取り組み、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、町の担当者や地域包括支援センターと連携し、藤の里だよりを地域の行政機関に配布し、情報交換を密にしている。また、町の職員の実地研修を受け入れ、事業所の行事と一緒に参加してもらいながら、交流を通して介護サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	藤の里だよりの送付と共に、利用者の近況報告や職員紹介、金銭管理等について定期的に報告している。家族の来訪時には写真を見ながら、生活ぶりについて話し合いをしている。また、状態の変化については、きめ細かい電話対応をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、近況を話し合いながら意見や苦情を出しやすい雰囲気心がけている。また、苦情箱を設置して、苦情等表せる機会を設けている。改善課題については、毎月の家族会やミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の出入りは殆どなく、職員と利用者は馴染みの関係から信頼関係を築くことを大切にしている。職員は居室担当性により、きめ細かな支援をしている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、担当者が課題を決め、事業所としての研修会を実施している。また、外部研修にも参加し、研修報告やミーティングで学びを共有して、職員全体のレベルの向上につなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加盟し、勉強会や情報交換をしている。管理者は、社会福祉協議会の理事をしており、グループホームの開設者研修、リーダー研修等を受け入れ、ネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に、ホームを見学してもらったり、ショートステイを利用しながら、ホームの雰囲気や職員に徐々に馴染めるよう支援し、サービスの利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の先輩であることを心得ており、利用者から学ぶ姿勢や声がけに気配りをし、年齢層を考えながら利用者支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、個々の思いや意向を把握するように努め、本人の希望を大切にして支援の方向を決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりを通して、利用者や家族の思いや意見を聴き、ケアプランに反映させている。また、アセスメントやカンファレンス等で意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月を期間としているが、状態の変化や本人、家族の要望を受け止めて見直し、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況により、ショートステイの利用や、通院・送迎等柔軟に対応しながら、必要な支援を行っている。協力医療体制を利用し、24時間の救急対応や、訪問看護のサポート体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の往診や、定期的な受診支援等、個別対応への医療支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、主治医との連携により、家族や本人の要望を尊重しながら、ホームとして対応している。ターミナルケアについても話し合い、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについては、個々の誇りを損ねないよう、命令口調や否定的な言葉にならないよう留意している。入浴時や介護に関しては、同性の職員が対応している。また、記録類の管理は、守秘義務を励行し、取り扱いに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについては、その日の体調に配慮し、食事や着替え等、その人のペースや希望に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ等、可能な限り、職員と共にやっている。差し入れの野菜については、利用者の好みを聞き、一緒に調理して、美味しく楽しめるよう支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、本人の希望やペースで、入浴が楽しめるように支援している。持病のある人については、その都度説明し、納得が得られるような働きかけをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、料理、掃除、洗濯物の整理等、利用者の個々の得意とすることを活かした役割がなされており、また、書道、絵手紙、カラオケ等、趣味を楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を味わえるよう、散歩、ドライブ、お花見等実施している。ホームの庭で、四季折々の花々を育てたり、二基のプランコでゆったりする時間が過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、門扉には利用者の安全面に配慮したさりげない工夫がされ錠はしていない。職員の見守りと声がけをしながら、自由にゆったりと過ごせるよう支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、近隣者、家族会にも声をかけ、年4回、防災訓練を実施している。近隣防災協定により、町内会の協力体制が得られるよう話し合いがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量が毎日記録され、適切な量が摂取されているかチェックしている。毎月、給食委員会が開かれ、メニューや栄養バランス、嗜好について話し合っている。また、毎月、体重測定をし、個人毎の支援をしている。		
思考					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには、プランターや植木、ソファ等が置かれ、お茶や会話ができるスペースがある。ホールには利用者の作品や行事の写真等が飾られ、温かい雰囲気居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が使いやすいベッドが設置されている。本人や家族と相談しながら、馴染みの家具や思い出の品等が設置され、個人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		